

小学校 キャリア教育の手引き

—小学校学習指導要領(平成29年告示)準拠—

令和4年3月



文部科学省

はじめに

今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されています。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は、大きくまた急速に変化しており、予測が困難な時代となっています。

このような時代の中でも、児童一人一人が、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合っており、自らの可能性を發揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の創り手となることができるよう、児童の生きる力を育むことが目指されています。

「キャリア教育」という用語が文部科学行政関連の審議会報告等で初めて登場したのは、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（平成11年12月）」においてでした。本答申では「学校教育と職業生活との接続」の改善を図るために、小学校段階から発達段階に応じてキャリア教育を実施する必要があると提言されています。

その後、様々なキャリア教育推進施策が展開されましたが、平成18年におよそ60年ぶりに改正された教育基本法においては、「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培う」ことが、義務教育の目的の一部に位置付けられました。翌年改正された学校教育法では、新たに設けられた義務教育の目標の一つとして「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」が定められ、小学校からの体系的なキャリア教育実践に対する法的根拠が整えられました。

また、平成23年1月の中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」では、幼児期の教育から高等教育までを通したキャリア教育・職業教育の在り方がまとめられました。さらに、平成29年改訂の小学校学習指導要領では、「児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」と示されました。児童に学校で学ぶことと社会との接続を意識させ、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育み、キャリア発達を促すキャリア教育の充実を図ることが求められています。

小学校におけるキャリア教育は、初等教育から高等教育に至る系統的・組織的なキャリア教育の基盤として極めて重要な意味を持ちます。文部科学省では、その重要性に鑑み、学習指導要領の改訂に伴い、『小学校キャリア教育の手引き』も改訂する運びとなりました。本書が、各小学校はもとより、関心をお持ちの多くの方々に広く活用され、キャリア教育の指導内容・指導方法の充実役に役立つことを念願しております。

末尾となりましたが、本書の作成に当たり御尽力を賜りました作成協力者及び関係の皆様へ深くお礼申し上げます。

令和4年3月

文部科学省初等中等教育局長
伯井美徳

小学校キャリア教育の手引き

—小学校学習指導要領(平成29年告示)準拠—

目次

●はじめに

第1章 キャリア教育とは何か

第1節 これまでのキャリア教育推進施策の展開と課題 …… 6

- (1)若年者の雇用・就労問題の顕在化とキャリア教育の提唱
- (2)キャリア発達に着目した能力論の提唱
- (3)職場体験活動への焦点化
- (4)その後の主な施策の展開
- (5)草創期から10年を経たキャリア教育が残した主な課題

第2節 キャリア教育を通して育成すべき能力「4領域8能力」 …… 9

- (1)文部省委託研究による「4領域12能力」論
- (2)「4領域8能力」論の開発と提唱
- (3)「4領域8(12)能力」論の意義

第3節 「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」提唱後の展開 …… 12

- (1)「4領域8能力」の画一的な運用
- (2)本来目指された能力との齟齬
- (3)生涯にわたって育成される一貫した能力論の欠落

第4節 キャリア教育を通して育成すべき「基礎的・汎用的能力」 …… 15

- (1)「4領域8能力」の画一的な運用
- (2)キャリア教育の新たな定義
- (3)社会的・職業的自立, 学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力
- (4)勤労観・職業観の位置付け

第5節 基礎的・汎用的能力を構成する四つの能力と今後の実践 …… 19

- (1)基礎的・汎用的能力を構成する四つの能力
 - (2)基礎的・汎用的能力に基づくキャリア教育実践の方向性
- 〈コラム〉 「キャリア発達」についてもう少し詳しく……

第6節 平成29年・30年告示の学習指導要領におけるキャリア教育 …… 25

- (1)小中高, 総則にキャリア教育を明示
 - (2)キャリア教育の中核となる時間
 - (3)キャリア教育の中核となる活動
 - (4)「キャリア・パスポート」の導入
 - (5)キャリア・カウンセリング
 - (6)職業に関する体験活動
- 〈コラム〉 「キャリア教育に関する総合的研究」から

第2章 キャリア教育推進のために

第1節 校内組織の整備 …… 38

- (1)キャリア教育の推進と校長の役割
- (2)児童に対する指導体制
- (3)実践を支える運営体制

第2節 教職員の研修 …… 41

第3節 全体計画の作成 …… 43

- (1)全体計画の基本的な考え方
- (2)各学校において定めるキャリア教育の目標
- (3)身に付けさせたい資質・能力の設定
- (4)教育内容・方法の明確化

第4節 年間指導計画の作成 …… 48

- (1)年間指導計画の基本的な考え方
- (2)年間指導計画・単元指導計画の作成
- (3)年間指導計画作成の留意点

第5節 学校, 家庭, 地域の連携・協働 …… 51

- (1)キャリア教育における連携の経緯と基本的な考え方
- (2)家庭・保護者との連携
- (3)地域や働く人との連携
- (4)学校間(校種間)連携

第6節 評価 …… 57

- (1)評価の基本的な考え方
 - (2)児童の学習状況の評価
 - (3)教師の学習指導の評価
 - (4)各学校の指導計画の評価
- 〈コラム〉 このような連携・協働も……

第3章 小学校におけるキャリア教育

第1節 小学校におけるキャリア発達 64

- (1)各学年団におけるキャリア発達の捉え方
- (2)各学校におけるキャリア発達の課題の具体的な捉え方

第2節 教育課程との関わりにおけるキャリア教育 67

- (1)児童の現状を踏まえた具体の能力の設定の取組

【事例1】福島県東白川郡棚倉町立棚倉小学校

- (2)カリキュラム・マネジメントの視点によるキャリア教育
- (3)教科等におけるキャリア教育実践の基本

【事例2】東京都世田谷区立尾山台小学校ー常に取組を見直し改善する学校づくりー

【事例3】大阪府高槻市立第四中学校区ゆめみらい学園(高槻市立富田小学校・赤大路小学校・第四中学校)ー小小連携, 小中連携により, キャリア教育の効果を高める取組ー

【事例4】宮城県仙台市立錦ヶ丘小学校ーICT 環境を活用した取組ー

第4章 各学年段階におけるキャリア教育

低学年 94

- 《国語科》学びに向かう力や学んだことを生かす力を高める
- 《道徳科》基本的な生活習慣を身に付けさせる～合言葉は「やればできる」～
- 《生活科》自己肯定感を高め, 進級への意欲や希望へとつなげる
- 《学級活動(1)》自分たちで問題を解決していくことのよさを実感させる
- 《音楽科》学びと学び, 学びと自分たちの生活をつなげる
- 《体育科》友達との関わりを通して, 多角的なものを見方を育む
- 《学級活動(3)》低学年から育む望ましい勤労観・職業観
- 《学校行事》異学年交流を通して, 自己肯定感・自己有用感を高める

中学年 112

- 《国語科》役割を話し合い, グループで合意形成をはかる
- 《算数科》既習事項の活用と他者との対話を通して, 課題を解決する力を育てる
- 《学級活動(3)》なりたい自分になるための目標を意思決定する
- 《体育》自分らしく生きること自信をもつことができる
- 《図画工作科》造形活動におけるコミュニケーションを通した「人間関係・社会形成能力」の育成
- 《学級活動(3)》自己マネジメント力向上による家庭学習の充実
- 《学級活動(1)》係活動に積極的に取り組み, 働くことの楽しさに気付く

高学年 128

- 《学級活動(1)ア》学級や学校における生活上の課題を発見し, 解決しようとする態度を育てる
- 《社会》情報化が進む社会で「働くこと」に目を向ける
- 《外国語》中学校生活や将来について考える
- 《理科》生活とつながる問題解決
- 《国語》これからの社会の生き方について交流し, 自らの考えを広げる
- 《学級活動(3)ア》現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度を形成する
- 《学校行事》「キャリア・パスポート」を活用し, 学校行事への意欲を高めたり, 自己の成長を感じられたりする活動
- 《クラブ活動》個性の伸長を図るとともに, 個性を生かしながら, 人のために役立つことをしようという意欲を育てる
- 《総合的な学習の時間》社会と自己の関わりから, 自らの夢や希望をふくらませる